

コロナ禍でのスポーツ大会運営と感染予防対策 ～大学バドミントン界の事例

渡辺 英次 (文学部教授)

1. はじめに

2019年12月に発生した新型コロナウイルス「COVID-19」は、丸2年を経た2022年2月15日の時点において、これまでよりも感染力の強いオミクロン株の台頭により若年者の感染者も増加傾向にある¹⁾。欧米諸国では3回目のワクチン接種が進んでおり、一部にはコロナ関係の規制を解除、撤廃する国も報告されている^{2,3)}。これまでの日常を取り戻そうという動きも目立ってきたが、新たな変異種の発生報告などもあり、まだまだ慎重な判断が求められる状況である。

2021年度、本邦では延期されていた東京2020オリンピック・パラリンピックが開催された。緊急事態宣言下での開催のため、一都三県では無観客開催となるこれまでにない大会となった。日本バドミントン協会主催大会においては、感染状況によって無観客ながらいくつかの大会は開催されたが、依然厳しい状況は変わらず、2年連続の中止を決断する大会も数多くあった⁴⁾。

著者が所属する大学バドミントン界、とりわけ関東学生バドミントン界に目を向けると、関東大学バドミントン連盟では2020年度の各種大会開催に向けて幾度となく協議を重ねたが地域の感染状況、大会運営方法、体育館の使用条件、未知のウイルスへの対応など不

安定要素が多く、開催までには至らなかった。2021年度についても依然コロナ禍にあったが、この1年間協議を重ねた知見を活かし、関東学生春季リーグ、関東選手権、関東学生バドミントン競技会兼インカレ推薦者選考会(東日本選手権代替大会)、全日本学生選手権(全日本学連主催、関西学連主催)、全日本学生ミックスダブルス選手権(全日本学連主催、関東学連主催)が開催された。本資料では、著者が実際に現地で確認した関東学生春季リーグ、東日本選手権代替大会、全日本学生選手権を中心に新しい大会運営、感染予防対策についてまとめた。なお、感染予防対策については2020年度同様に日本バドミントン協会のバドミントン活動ガイドライン⁵⁾に準じた大会運営の実施となる。大会運営、選手、観客、スタッフの動きについて、これまでの大会と異なる点を記述した。また、共通した部分については2.1でのみの記述とした。なお、本資料は2022年2月15日までの状況について記したものである。

2. 各学生大会での感染予防策

2.1 関東大学バドミントン春季リーグ戦⁶⁾

■日程：2021年4月17～6月19日

■会場：土浦市霞ヶ浦文化体育会館、つくば市つくばカピオ他

■試合形式：各リーグ総当たり団体戦(2D3S)

■感染予防策：(プログラムより一部抜粋)

▽試合日前

- ・ガイドラインの確認(大会パンフレットにも掲載)
- ・感染者(不顕性感染者含む)や体調不良者が絶対に大会会場に行かないこと
- ・無観客開催
- ・入場予定者の登録(選手、スタッフ含めて15名以内で入力。3部以下の当番校のみ20名。リストにない場合は入館不可)
- ・2週間前から大会前日までの健康チェックを行う
- ・大会出場最終日以後2週間の健康チェックを行う
- ・日常の感染予防対策の徹底
- ・体調が良くない場合、同居家族や身近な知人に感染が疑われる場合、過去14日以内に政府から入国制限、入国後の隔離期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合は自主的に参加を見合わせる

▽当日

- ・必ず部長、監督、コーチ等の責任者(大人の責任者)が帯同すること
 - ・指定された入館時間を遵守
 - ・会場入場時にチェックリストを提出(提出がない場合は参加不可)
 - ・アリーナ入場時に必ず手指の消毒・検温
 - ・プレー中以外は必ず不織布マスク着用
 - ・各施設で指定された動線を遵守
 - ・各施設のルール遵守
 - ・黙食
 - ・常時一部の扉や窓の開放と、定期的な換気を実施
 - ・ライブ配信の実施
- ▽試合中
- ・プレー中に足の裏を手で拭く行為を控える
 - ・プレーヤー同士やコーチとハイタッチ等の接触は行わない
 - ・プレーヤーはゲーム中に大きな声を出さない
 - ・コーチングは一定の距離を保ち、必要最小限に短時間でを行う
 - ・ラケット等は直置きせず、ラケットバック



図1 感染予防対策を講じた大会運営(関東大学バドミントン春季リーグ戦)

等に入れる

▽試合終了後

- ・同一時間の試合終了後に、選手を全員入れ替えると共に換気を行う
- ・使用した席は消毒
- ・更衣室は着替えのみとし、シャワー・ロッカーは使用しない

▽観戦時

- ・座席指定
- ・応援席及び観客席での応援は拍手のみ
- ・会場内では必ずマスクを着用する
- ・観客席は前後左右を1つ以上空けて使用する

▽審判

- ・シャトル交換は選手の意思で選手自身が行う
- ・コート内の汗を線審が拭く際は、用意されているゴム手袋等を活用して拭く
- ・得点係は手袋着用
- ・定期的な換気を行う
- ・使用後は座席を消毒

所感

1年ぶりに開催された本大会はコロナ禍での開催となり、参加各大学、大会参加のための事前の打ち合わせ等、ルールを遵守して緊張感のある大会開催となった。リーグ戦は1部から6部まであり、1・2部は学連役員、3～6部は当番校が大会を統括し、原則同じ運営方法で行われる。これまでは大学の体育館を会場として使用していたが各大学感染予防対策により学外者の入構禁止、貸出禁止措置により公共体育館を使用していたのが本大会となった。体育館の指示する収容定員、館内に留まる時間、人数を最小限に抑えるために集合時間や会場を分散した。競技会の確保とともに大会を原因とした感染者を出さないために、感染予防対策の徹底を確認し、大会開催前、期間中、終了後と健康状況を確認した大会であった。日常的な消毒液の不足と価格高騰などにより経費面でもこれまでとは違った対応が求められた。

大会日程について、地域の感染状況により貸出不可となることでの会場変更、棄権による同一リーグ内のチーム編成の入れ替えなどによるタイムテーブルや会場変更が発生した。1・2部の大会では、3日目から4日目の間に罹患したチームがあると連絡を受け、4日目、5日目のスケジュールを1ヶ月以上先に変更し、各チームは健康状態の確認を行った。

無観客による大会運営であるが、観戦を望む声も多く、大学生の大会をより広く認知して

いただくために一部の試合のライブ配信を行なった。本動画は関東大学バドミントン連盟のYouTubeチャンネル⁷⁾にてオンデマンド視聴が可能であり、男子1部中央大学vs日本大学の映像は4.3万回を超える視聴数となっている。

他、大会開催にあたっては運営スタッフ、参加各チームスタッフ、選手のご協力、ご尽力により概ね予定通り進行した。現地では、参加チームスタッフから大会開催の御礼や激励を多数受けた。

2.2 関東学生バドミントン競技会兼インカレ推薦者選考会(東日本選手権代替大会)⁸⁾

■日程：2021年9月3～11日

■会場：千葉県長生郡白子町 ホテル東天光、ニューオーツカホテル隣接体育館

■試合形式：個人戦 男女S・D

■感染予防策：関東学生バドミントン春季リーグ戦、関東学生バドミントン選手権⁹⁾と同様の感染予防対策の徹底(プログラムより一部抜粋)

▽試合日前

- ・無観客開催
- ・参加日前日にGoogle Formにて入館者名簿(健康管理表)
- ・勝ち残った場合は、試合日前日に健康管理表を再度提出する(参加日の前日毎に提出)
- ・大会期間中の飲酒禁止。発覚した場合は以降の大会出場を認めないなどの対応

▽当日

- ・試合開始時間の20分前から体育館入場可能(タイムテーブルに記載)
- ・試合終了後は審判を行い、終了後は速やかに退館する。勝ち残り同日に試合がある場合でも一度退館し、次試合の指定された時間に再入場する
- ・会場内、指示に従った動線に沿って行動。原則一方通行
- ・円滑な大会運営のためホワイトボードを使用して情報共有(図2)

▽試合中

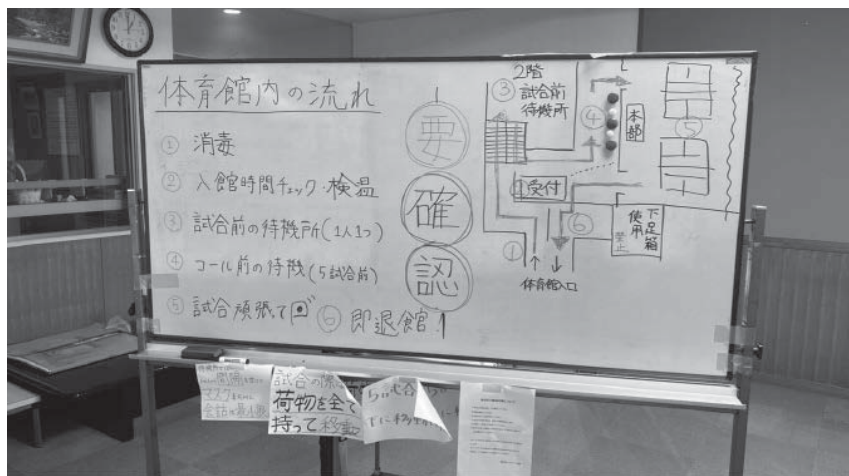


図2 会場内での情報共有(関東学生バドミントン競技会兼インカレ推薦者選考会)



図3 上部窓は暗幕を閉じて開放。換気時間は全面開放し扇風機も使用(同上)

- ・声出しは禁止。度重なる注意にもかかわらず改善が見られない場合はペナルティの対象
 - ・コーチ席は1席のみ
 - ・試合途中でも中断し、定期的に扉を大きく解放し、扇風機使用しての換気(図3)
- ▽試合終了後
- ・勝者、敗者共に次試合の審判を行う
 - ・審判終了後、速やかに退館する
- ▽観戦時
- ・観客席はないので、体育館内に滞留せず、速やかに退館する
 - ・他大学の学生との対面での会話はマスク着用の上、必要最小限で終わらせること
- ▽審判
- ・主審1名、線審2名で実施
 - ・シングルスの場合は前試合の2名+敗者が自身の大学から1名。ダブルスの場合は敗者2名+勝者1名で審判を行う

所感

東日本学生バドミントン選手権は全日本学生バドミントン選手権の出場者を決定する大会でもある。本年は宮城県で開催予定であったが感染者数の増加、地域の事情を鑑みて中止が決定された。各地域学連にて出場者を決定するために地域の実情に合わせた方法が採用された。関東学連では代替大会を実施し、

上位進出者およびインカレ決定戦の結果により全日本学生出場者を決定した。本大会実施にあたり、団体戦、個人戦が行われる大会であるが、感染予防対策に伴う大会期間の長期化が見込まれ、大会運営、スケジュールが困難との判断から個人戦のみの開催となった。公共体育館の使用が厳しい状況にあったため、宿泊施設付設の体育館を使用した。館内は観客席がほぼないため、館内に選手が滞留しないように入館時間を試合開始時間の20分前とした。屋内テニスコートをウォーミングアップ会場にするなど、観戦予防、傷害予防のためのスペースの確保を行なった。宿泊を伴う選手が多いことから、宿泊先での行動についても注意喚起がなされた。勝ち進んだ場合は、審判終了後に一度退館しタイムテーブルに記載された試合時間前に再入館するという措置が取られたため、各選手宿泊先で待機する対応となった。大会運営は9日間+準備期間と長きに渡ったが、参加チームスタッフ、選手、学連役員・委員のご協力により無事終了した。

2.3 全日本学生バドミントン選手権大会¹⁰⁾

- 日程：2021年10月15～21日
- 会場：奈良市ロートアリーナ奈良、桜井市芝運動公園総合体育館
- 試合形式：男女団体戦、個人戦男女S・D
- 感染予防策：(webサイトより一部抜粋)

- ▽試合日前
- ・無観客開催
 - ・選手、チームスタッフ、大会運営スタッフなど、会場に到着するすべての方を対象に2週間前からの健康チェックを実施し、各チーム単位で提出
- ▽当日
- ・各大学広報担当者は1名のみ。本部にて受付し、ピブス着用
 - ・個人戦期間において、団体戦出場選手がチーム選手の応援を目的に入場することはできない。
 - ・各チームに参加者一覧表を提出し、IDを発行する。大会会場ではID着用とし、IDない方は入場を認めない
 - ・ゴミはチーム単位で集めたりせず、各自全て持ち帰ること
- ▽試合中
- ・団体戦の挨拶は近づかずに握手をせず、双方のコートのショートサービスラインの後ろに位置して挨拶(図4)
 - ・コートサイドにカゴは設置しない。各自のバッグをコートサイドに置き、ドリンク、タオル等はバッグの中に収納して使用
- ▽試合終了後
- ・勝者、敗者共に次試合の審判を行う
 - ・審判終了後、速やかに退館する
- ▽観戦時



図4 団体戦の挨拶は間隔を空けて不織布マスク着用(全日本学生バドミントン選手権大会)

- ・観客席はないので、体育館内に滞留せず、速やかに退館する
- ・他大学の学生との対面での会話はマスク着用の上、必要最小限で終わらせること
- ▽審判
- ・主審、線審、得点係はビニール手袋を着用

所感

年度の学生チャンピオンを決定する大会。2019年度は台風のため団体戦は中止、2020年度はコロナ禍により中止となった。団体戦は3年ぶりの開催となり、1~3年生は初めての全国大会団体戦となった。会場内、暗幕は閉められているが窓は開放されており、コートによってはシャトルのスピードに若干影響がありそのような印象を持ったが、コートに入った各プレーヤーはそれが当たり前のものであり、その環境に応じた戦術、戦略を立ててプレーしているようであった。また、例年試合終了後は歓楽街にてOBOG含めて各大学交流が盛んに行われているが、今回のコロナ禍での大会開催において、参加者の理解も進み、大会成功に向けた慎重な行動を選択していた印象であった。本大会を無事に成功させようという気運も高まり、概ね滞りなく進んだと推察する。

4. まとめ

2021年度に開催した学生バドミントン大会において、著者が所属する関東学生連盟主催大会を中心に、実際に視察に赴いた3大会について、今後の大会運営のあり方、進め方を考える際の資料としてまとめた。2020年度の大会が全て中止になった大学バドミントン界において、協議を重ねた1年間の知見を活かし、2021年度はコロナ禍での大会運営を試みたチャレンジの年であった。特に、4月から開催された春季リーグ戦においては、大会運営者、参加者共に緊張感のある大会であった。ほとんどの参加者が状況を理解してガイドラインに従った行動をおこしていたが、一部の参加者には久しぶりの大会で気分が高揚し、コロナ禍以前と同様に応援で声をあげたり、黙食が守れなかったり、ゴミを下級生が持ち帰るような旧態依然とした行動もみられた。これら行動については学連役員・委員、当番校による都度の注意喚起や主務会議での情報共有によるガイドラインの遵守徹底の確認などにより行動変容がおき、いわゆる「新しい生活様式」の浸透により大会が進むに従って良い方向に進んだ印象であった。

視察した3大会の参加者は、まずは大会が開催されたことに感謝し皆協力的であり、積極的に消毒作業の手伝いや大会運営のサポートを行なっている姿を数多く見ることができた。これら大会が開催される中で良い点、改良点を認識し記録をすることが大切である。それぞれの施設でガイドラインや運営方法が異なるため、貸し出しをする先方の信頼に応えるためにも地域や会場のガイドラインの確認し記録することが大切である。これら情報を大会運営者、全参加者含めて大会に関係する全ての方々と共有し、次の大会運営に活用して常にブラッシュアップすることが求められる。

大会参加に当たっては、体調チェック等求められており、試合終了後についても健康状態を記録することになっている。現在、体調不良となった場合に行う検査結果や濃厚接触者の判定、連絡に時差が生じている。陽性者が発生した場合や体調不良者が発生し判定結果が不明な場合は、所属選手全体が棄権となる。部内での活動のみであれば線引きが可能な部分もあるが、学生生活は課外活動だけではなく対面授業やアルバイト、不特定多数と交流する機会が多くなる。特に2022年度は多くの大学で対面授業を積極的に行う機会が増えることから、部外の陽性者、濃厚接触者、体調不良者との接触有無や濃厚接触者の認定など様々なケースが考えられる。参加チーム、選手においてはこれまで同様の体調管理と少しでも不安がある場合には、スポーツマンシップとフェアプレーに基づき、スポーツの価値を高める行動がより求められる。まずは安全な大会開催が第一義にあり、大会は原則参加費で運営されていることから、たとえ棄権者が増加しても体育館使用料などの経費は変わらず、棄権による参加費の返却は現実問題として非常に困難である。しかしながらコロナ禍が続くようであれば、棄権の取り扱いについても他競技の状況など含めて情報収集する必要がある。

観戦においては昨年度から引き続き、しばらくは無観客や入場制限等が求められ、気軽に試合観戦とはいかない状況が続くようである。リーグ戦、全日本学生選手権においては、ライブ配信を行ない、保護者、OBOGからは、このような活動に好意的な発言をいただく機会が多かった。大学バドミントン界においては競技力向上だけではなく、高校生の進路選び、競技人口や支援者の増加に大きな一翼をなす活動である。今年度は筑波大学体育会バドミントン部並びに筑波大学支援スタッフ(アスレ

ティックデパートメント)のご尽力により活動が行われた。継続した活動のためには学生スタッフの育成、あわせて活動に興味のある学生の勧誘、参画が必須である。

今年度においても有志による大学生の交流大会、大学生と社会人交流大会など開催される旨、情報はいただいていたが、所用のため伺うことができなかった。情報に関して一部偏った情報になっていることも否めないがご容赦願いたい。

5. 謝辞

大変な状況の中、大会を企画、準備から開催、終了まで運営された全ての関係者の皆さま、特に各地域学生連盟学生役員・委員の多大なご尽力により2021年度の学生大会が無事開催されたこと、改めてこの場を借りてお礼申し上げる次第である。

参考文献

- 1) 読売新聞オンライン オミクロン株の割合84%に…現在は若年層が拡大の中心。
<https://www.yomiuri.co.jp/national/20220113-OYT1T50240/>(閲覧日2022.2.15)
- 2) AFP BBNews デンマーク、コロナ規制を全面解除「以前の生活」復活へ。
<https://www.afpb.com/articles/-/3387140>(閲覧日2022.2.15)
- 3) BBC NEWS JAPAN 英イングランド、コロナ規制を全廃へ 隔離措置は24日に廃止。
<https://www.bbc.com/japanese/60460931>(閲覧日2022.2.22)
- 4) 日本バドミントン協会 大会情報2021年。
<https://www.badminton.or.jp/result/2021.html#japan>(閲覧日2022.2.15)
- 5) 日本バドミントン協会 日本バドミントン協会新型コロナウイルス対策ガイドラインの更新について。
https://www.badminton.or.jp/covid-19_1/index.html(閲覧日2022.2.15)
- 6) 関東学生バドミントン連盟 関東大学バドミントン春季リーグ戦。
<http://www.kantoibf.com/game/000318.html>(閲覧日2022.2.15)
- 7) 関東学生バドミントン連盟 YouTube チャンネル。
<https://www.youtube.com/channel/UCr1hEHskxfVvRinLmcO4Xqg/videos>(閲覧日2022.2.15)
- 8) 関東学生バドミントン連盟 関東学生バドミントン競技会兼インカレ推薦者選考会。
<http://www.kantoibf.com/game/000344.html>(閲覧日2022.2.15)
- 9) 関東学生バドミントン連盟 関東学生バドミントン選手権大会。
<http://www.kantoibf.com/game/000322.html>(閲覧日2022.2.15)
- 10) 全日本学生バドミントン連盟 第72回全日本学生バドミントン選手権大会。
<http://www.japanibf.com/game/000327.html>(閲覧日2022.2.15)